

司式 杉山昌樹牧師

前 奏

奏楽 大日南苗香姉

開 会 招 詞 ヨハネの黙示録19章5節

\* 賛 美 歌 13:1 (ソングシート)

1. 万<sup>よろず</sup>のもの 永遠<sup>とわ</sup>にしらす 御父<sup>みちち</sup>よ、いま恵みを 下<sup>くだ</sup>し給<sup>たま</sup>え、 御名<sup>みな</sup>をほむる

我らに。アーメン

\* 開 会 祈 禱

罪 の 告 白 祈禱書2 罪の告白①

神<sup>かみ</sup>よ、わたしを憐<sup>あわ</sup>れんでください。御慈<sup>おんいつく</sup>しみをもって。深<sup>ふか</sup>い御憐<sup>おんあわ</sup>れみをもって、背<sup>そむ</sup>きの罪<sup>つみ</sup>をぬぐい去<sup>さ</sup>つて  
てください。わたしの咎<sup>とが</sup>をことごとく洗<sup>あら</sup>い、罪<sup>つみ</sup>から清<sup>きよ</sup>めてください。わたしは咎<sup>とが</sup>のうちに産<sup>う</sup>み落<sup>お</sup>とされ、  
母<sup>はは</sup>がわたしを身<sup>み</sup>ごもったときも、わたしは罪<sup>つみ</sup>のうちにあつたのです。わたしを洗<sup>あら</sup>ってください。雪<sup>ゆき</sup>よりも  
白<sup>しろ</sup>くなるように。神<sup>かみ</sup>よ、わたしの内<sup>うち</sup>に清<sup>きよ</sup>い心<sup>こころ</sup>を創造<sup>そうぞう</sup>し、新<sup>あた</sup>しく確<sup>たし</sup>かな霊<sup>れい</sup>をさずけてください。救<sup>すく</sup>いの喜<sup>よろこ</sup>び  
を再<sup>ふた</sup>たびわたしに味<sup>あじ</sup>わわせ、自由<sup>じゆう</sup>の霊<sup>れい</sup>によって支<sup>ささ</sup>えてください。主<sup>しゅ</sup>よ、わたしの唇<sup>くちびる</sup>を開<sup>ひら</sup>いてください。この  
口<sup>くち</sup>は、あなたの賛<sup>さん</sup>美<sup>び</sup>を歌<sup>うた</sup>います。 主<sup>しゅ</sup>イエス・キリストの御名<sup>みな</sup>によって。アーメン。 (詩編51)

罪の赦しの宣言

十 戒 祈禱書4

1. あなたは、わたしのほかに、何<sup>なに</sup>者<sup>もの</sup>をも神<sup>かみ</sup>としてはならない。
2. あなたは自<sup>じ</sup>分<sup>ぶん</sup>のため<sup>ため</sup>に刻<sup>きざ</sup>んだ像<sup>ぞう</sup>を造<sup>つく</sup>ってはならない。それ<sup>それ</sup>にひれ伏<sup>ふ</sup>してはならない。それ<sup>それ</sup>に仕<sup>つか</sup>えてはならない。
3. あなたは、あなた<sup>かみ</sup>の神<sup>しゅ</sup>、主<sup>な</sup>の名<sup>な</sup>を、みだりに唱<sup>とな</sup>えてはならない。主<sup>しゅ</sup>は、  
み名<sup>な</sup>をみだりに唱<sup>とな</sup>える者<sup>もの</sup>を、罰<sup>ばつ</sup>しないではおかない。
4. 安息<sup>あんそく</sup>日<sup>にち</sup>をおぼえて、これ<sup>これ</sup>を聖<sup>せい</sup>とせよ。
5. あなたの父<sup>ちち</sup>と母<sup>はは</sup>を敬<sup>うやま</sup>え。
6. あなたは殺<sup>ころ</sup>してはならない。
7. あなたは姦<sup>かん</sup>淫<sup>いん</sup>してはならない。
8. あなたは盗<sup>ぬす</sup>んではならない。
9. あなたは隣<sup>りん</sup>人<sup>じん</sup>について偽<sup>ぎ</sup>証<sup>しょう</sup>してはならない。
10. あなたは隣<sup>りん</sup>人<sup>じん</sup>の家<sup>いえ</sup>をむさぼってはならない。隣<sup>りん</sup>人<sup>じん</sup>の妻<sup>つま</sup>、またすべて隣<sup>りん</sup>人<sup>じん</sup>

のものをむさぼってはならない。

(出エジプト20、申命記5)

\* 賛 美 歌 13:2

2. 人<sup>ひと</sup>となりし 救<sup>きう</sup>いの御子<sup>みこ</sup>、主<sup>しゅ</sup>イエスよ、利<sup>き</sup>ぎ劍<sup>けん</sup>の 御言<sup>みこと</sup>葉<sup>は</sup>もて示<sup>しめ</sup>し給<sup>たま</sup>え まことを。アーメン

共同の祈禱 8 降誕節 第一主日 待降

約<sup>やく</sup>束<sup>そく</sup>に忠<sup>ちゆう</sup>実<sup>じつ</sup>な神<sup>かみ</sup>さま、あなた<sup>みこ</sup>の御子<sup>みこ</sup>イエス・キリストの来<sup>らい</sup>臨<sup>りん</sup>によって、預<sup>よ</sup>言<sup>げん</sup>者<sup>しゃ</sup>たち<sup>たち</sup>に約<sup>やく</sup>束<sup>そく</sup>して下さ<sup>くだ</sup>さつ  
たことが成就<sup>じゆうじゆ</sup>しました。わたし<sup>すく</sup>たちに救<sup>きう</sup>いの日<sup>ひ</sup>がおとずれたことを覚<sup>おぼ</sup>えて、感<sup>おぼ</sup>謝<sup>かんしゃ</sup>しつづ御名<sup>みな</sup>をあがめま  
す。

主が再び来られるとき、栄光と力をもって御国の勝利を宣言し、わたしたちの救いを完成してください  
ますから、わたしたちは、希望を持って主の再臨を待ち望みます。

(マタイ1、マタイ24)

献 金 (黒) 教会活動 (赤) 甲信越 70

今献ぐるそなえものを 主よ 清めて受けたまえ アーメン

聖書朗読 エレミヤ33章12-16節(旧約聖書1241頁)

マタイ3章1-12節(新約聖書3頁)

説教・祈祷 「神の道を歩む」杉山昌樹牧師

\* 賛美歌 16:3, 4

3. ダビデの裔なる 主よ、とく来たりて、平和の花咲く 国を建て給え、主よ、主よ、御民を  
救わせ給えや。

4. 力の君なる 主よ、とく来たりて、輝くみくらに 永久に即き給え、主よ、主よ、御民を 救  
わせ給えや。アーメン

聖餐式

\* 主の祈り 祈祷書1

天にまします我らの父よ

願わくは御名をあがめさせたまえ

御国を来たらせたまえ 御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ

我らの日用の糧を 今日も与えたまえ

我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく 我らの罪をも赦したまえ

我らを試みに会わず 悪より救い出したまえ

国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり アーメン。

\* 頌 栄 65

父、み子、みたまのおおみかみに、ときわにたえせず みさかえあれ。アーメン

\* 祝 禱

後 奏 (黙禱)

報 告 古澤純一長老(司会・受付 次週:門脇陽子長老)

本日 受付 1階:藤井牧子・大日南隆夫執事 2階:大日南信也執事 /ZOOMホスト・録音:  
森川莞太

次週 受付 1階:加藤良明・佐藤紀子執事 2階:古澤迪子執事 /ZOOMホスト・録音:大日  
南信也

※ グループ制により、長老も1階と2階に一名ずつ加わります。

## マタイ3：1-12 「神の道を歩む」

### 新しい時代の到来

先週もお話ししましたがわたしたちが今過ごしていますこの時間、アドベントの時は、「到来の時」です。新しい時代がやってきているということです。私たちは、クリスマスにおいて、イエス様のご誕生を喜びます。しかし、それは、単にイエス様が生まれられたのがうれしい、ということにとどまらないのです。むしろ、イエス様が生まれられた、ということは、決定的に新しい時代がやってきたしるしなのです。そして、その新しく始まっている良い時代の訪れを喜ぶ、これがクリスマスの意味です。では、そのような決定的に新しい時代とは何でしょうか。

### 神の国は近い

それを示しますのが洗礼者ヨハネが語ります「悔い改めよ、天の国は近づいた」という言葉です。「天の国」という言葉は、他の福音書では「神の国」と言い換えられています。いずれも神様のご支配ということではほぼ同じ意味ですが、天の国と言いました場合には、天が地に近付いてきている、あるいは、わたしたちがすでに天国と呼んでいるその所、それこそ先週私たちは宇佐神兄弟を天に送りましたが、あの意味での天国が私たちにとってとても近くなっている、手が届きそうなほど近くなっている、ということをごヨハネは言うのです。そして、そのような時代になったのだから、新しい生き方を始めよう、というのが、「悔い改めよ」という言葉の意味するところです。天の国には天の国の生き方があるということです。天の国にふさわしく歩んでいくために必要なのは、悔い改めなのだと思います。

### 地は変わったかという疑問

ところが私たちはややもすると、世界は何も変わっていないじゃないか、神様がこの世界を全く変えてしまわれるというけど、どうだろうか。実際のところ何も起きていないように見える、とついつい思ってしまうのです。それどころか、今この時も、世界はすべてが理想的にはまったく変わっていない、いや、むしろ、様々に問題ばかりが多い社会ではないか。そもそも、自分にもいくつも悩みがある、そこに神様の助けが届いているように見えない。それなのに、新しい天の国が近いと本当に言えるのかと考えがちであるかもしれないのです。

しかし、まさにそのような思い、疑いの思い、この世界は何も変わっていない、だから、自分は自分の力で生き抜いていくしかないのだ、と言い張る思い、それは、神様が世界を変えて下さることを信じないという意味で、この私を支えて下さることに信頼しない、という意味で、神様を全く当てにしない状態と言えます。そのようにして、神様を当てにしない、あるいは当てにすることを忘れていて、というその事実そのものが、実は罪深いのもかもしれないのです。神様のご支配を、神様の御力がこのところに及んでいることを認めようとしなさい、という意味で罪深いのもかもしれないのです。そしてこれこそ私たちの住んでおりますこの世界の現実です。

### 集まってくる人たちと悔い改め

一方、今日の聖書では、ヨハネの呼びかけに答えて、多くの人たちが集まってきた、と書いてあります。ふさぎ込んでいた心が開くのです。5節の「エルサレムとユダヤの全土から、また、ヨルダン川沿いの地方一帯から」とある通りです。この範囲は、ガリラヤを除いて、ほぼユダヤ全体の人たちが集まってきた、ということになりますので、少し大げさな感じがしなくもありません。しかし、それほどに、このヨハネのことばは多くの人たちを引き付けた、疑いを乗り越えさせた、とも言えます。みんな、新しく天の国のご支配がはじまることを期待していたのです。もう一度信じようと思い直したのです。それで、オアシスに動物たちが集まるようにして、人々はやってきたのです。そして、このことは、私たちにとっても、本当はとても大切なのではないのでしょうか。それは神様と一緒に歩む、新しい時代がやってきたという喜びです。今日の5、6節では、人々は、自らの罪、先ほどの言い方で言えば、神様の訪れを信じられないという罪を告白し、そして、洗礼を受けたと描かれています。そして、実は、ヨハネが語りました、悔い改め、という言葉の意味が、まさにこの出来事にあらわれているのです。悔い改めとは、心の方向を転換することです。生き方を転換することです。人々は、神様のお働

きはない、と思い込んでいる罪を告白し、悔い改め、心の向きを変えたのです。そして、そのしるしとして洗礼を受けたのです。

#### ファリサイ派とサドカイ派

一方、今日の聖書は7節から雰囲気が変わります。それは、ファリサイ派とサドカイ派の人たちの登場によって始まります。かれらもまた、ヨハネから洗礼を受けようとやってきたのでした。しかし、ヨハネは彼らに向かって「蝮の子」と厳しい言葉を投げつけています。このような言い方はあまり聖書に出てきませんけれども、おそらく蝮のように毒を含んだ人たち、もう少し言えば神様に逆らうような人たち、といった意味で使われていると考えてよさそうです。では、ファリサイ派、サドカイ派といった人たちというのは実際の所どのような人たちだったのでしょうか。いわゆる聖書辞典的なことと言えば、ファリサイ派は、職人などの中間層を中心として、聖書の解釈に則して正しい生活をしようとしていた人たちでしょうし、サドカイ派は祭司階級のかなり保守的な人たちです。この二つのグループはライバルのような存在であったようです。それがまとめて洗礼を受けてに來た、ということも不思議なことですが、それよりも興味深いのは、この後のマタイの展開において、彼らはイエス様を批判し、殺害しようとするグループになっていくということです。この人たちはイエス様に躓くのですが、それはすでにこの時点ではっきりとしていたのです。

#### なぜ、蝮の末なのか？問題は実り

ではなぜ彼らは、イエス様に、そしてイエス様のもたらす新しい時代、天の国に躓いていくことになるのかです。この所でヨハネは、二つのことを言っています。一つは、悔い改めの実、です。そしてもう一つは、民族的、信仰的背景です。先祖にアブラハムを持っている、ということです。そしてこの二つのことは、別々なのではありません。言うまでもないことですが、創世記12章において、神様がアブラハムに語り掛けた、当時はアブラムと呼ばれていますが、彼に私の示す地に行け、といわれ、あなたを祝福の基とする、と言われたところから、神様とイスラエルの民との関係は始まったのでした。それはやがて神様と民との契約となります。そして、ファリサイ派とサドカイ派は、その理解の仕方は別にしても、自分達こそは、神様の契約の相手、自分達こそ、神様から祝福を受ける正当な人間だ、このように考えていたのです。そして問題はまさにそこにあったのです。ヨハネがここで問題にしていたのは、どのような血筋であるとか、どのような信仰的背景を持っているかとかではなく、むしろ、神様の方を向いた生き方だ、このように言っているのです。それはもっと言ってしまうと、洗礼は飾りじゃない、ということです。洗礼を受けることと、生き方を変えることは一体だということです。生まれつきの何かではなく、たえず、自分の思いを変え続けることが求められる、というのがヨハネの洗礼理解です。そしてそれが悔い改めの実です。

#### 悔い改めと水の洗礼、霊の洗礼

それは11節冒頭の言葉に書いてあることと一致します。「わたしは、悔い改めに導くために、あなたたちに水で洗礼を授けている」あなたたちが悔い改め続けるために、この洗礼はあるといいます。けれども、そこで勘違いしてはいけません。それは、このような悔い改め、神様へと思いを向け続ける、ということは、確かに私たちの心の問題ですけれども、私たちだけが頑張ることではない、という事実です。なぜなら、11節は、水の洗礼で終わっていないからです。ヨハネは、確かに水の洗礼を授けていました。それは、悔い改めのためでした。そしてこの悔い改めは、私たちのこの時代においても、通用する、信仰の基本的な態度です。しかし、そのような悔い改めに導く洗礼について、ヨハネは、このように続けています。「わたしの後から来る方は、わたしよりも優れておられる。わたしは、その履物をお脱がせする値打ちもない。その方は、聖霊と火であなたたちに洗礼をお授けになる」。私の後から、私よりもはるかに偉大な方が来る、言うまでもなくイエス様のことです。そして、イエス様は聖霊と火で、洗礼を授けられる、となっています。ここでは、あまり複雑に考えず、「聖霊の洗礼」とします。イエス様は、私たちに洗礼の時に聖霊を与えて下さる、ということです。私たちが悔い改めるのは、一人で頑張るのではなく、むしろ、イエス様に助けられて、イエス様に守られて、神様の方へと、思いを向け直していくものだということです。

## 悔い改め道を整えるのは聖霊

その関連で、味わいたい言葉があります。それは、イザヤ書から引用された、3節後半の言葉です。「荒れ野で叫ぶ者の声がする。『主の道を整え、／その道筋をまっすぐにせよ。』」。このカギ括弧の中のヘブライ語を直訳しますと「荒れ野で主の道をきれいにせよ、我らの神のために、砂漠の中の大路を平らにせよ」となります。このような言葉は、頭の中のことではなく、体験的なことを言っているはずで、荒れ野とは私たちの生きているこの地上のことかもしれません。そこで、主の道をきれいにしていく、この「きれいにする」という言葉は、「向きを変える、振り返る」とも訳せるようです。私たちの現実の生き方の中で、神様へと振り返り続ける、それが私たちの生き方をきれいにしていく、しかも、それが、私たちの人生の中に、神様に至る、大きな道を平らにしていくことになる、でこぼこだったかもしれない、細かったかもしれない道が、だんだんと平らな大きな道ようになっていく、しかも、それは、自分で成し遂げるのではなく、聖霊なる神さまの助けによって、時間をかけて、人生をかけてなされていく、時に逆方向に向かっていっているように見えながらも、広い道をつ造ることが成し遂げられていく、このように言えるのです。

## 集められる私たち

そして、そのような歩みは、それは、この世において、何か特別な功績をあげたかどうかとは関係なく、神様の前に値高いものとなるのです。12節は明らかに、終わりの時のことを、この世界が変えられる日のことを言っているはずですが、そこにおいて、決定的なことが起きる様子が示されています。そこで、悔い改めの人生を送った人たちは、イエス様に集められる、というのです。もちろん、倉に入れる、というのは、収穫物のようにして、天の国に受け入れられるという意味です。今、すでに私たちは、天の国が近づいた、という見通しの中で生きています。しかし、終わりの人には、完全に天の国に受け入れられるのです。その完成がすでに、明らかに見えている、私たちは、その中をすでに歩き始めている、と早くもこの段階で、ヨハネは告げているのです。

## 神の道を歩む

そういうわけですから、私たちは、今すでに、この広い道をつ造る生き方に招かれています。洗礼を受けた人はもちろん、これから洗礼を受ける方も、この道に来るようにと招かれています。そして、神様の用意してくださった道をつ歩いて、一生を過ごして、天の国に入っていくようにと招かれています。私たちは、みな、この天の国に至る大きな道をつ歩む、多くの人と進む行進に今このところで参加しているのです。

## 祈り

父なる神さま、み名を賛美いたします。あなたは、私たちを聖なる行進に連なるようにと、いつも招いてくださっているばかりでなく、御子の誕生によって、その道が全く確かであることを示してください。私たちは、なお、この地上において、躓きやすいものです。けれども御霊の助けを得て、なお、地上に道をはっきりと記していけますように、この週の歩みも強めてください。主イエス・キリストのみ名によって祈ります。アーメン。